

令和7年度 朝霞市立朝霞第十小学校 学力向上プラン

学校教育目標 『社会に生きる「生かす力」の育成』 【い】意欲のある子 【か】考える子 【す】健やかな子	目指す学校像 豊かな学びで 社会にむけて希望を持った児童がそろう学校 ◇学習指導要領を踏まえ、子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実。 ◇児童や地域の実態を踏まえた、多様なニーズに対応した教育を推進。 ◇コミュニティ・スクールとして、地域とともにある学校。 ◇子供・教職員・保護者にとって「よりそい」「やさしさ」のある学校。 ◇全ての教育活動を通して、できた楽しさ、分かった楽しさ、学ぶ楽しさ、ふれ合う楽しさが社会に生きる希望となる学校。	目指す児童像 ◇「い」意欲ある子 ・基本的生活習慣が身に付き、規律ある態度で凡事徹底できる子 ・夢や志を持ち、その実現に向け目標をもって努力できる子 ◇「か」考える子 ・自ら課題を見付け、その解決に向けて試行錯誤する意欲ある子 ・落ち着いて考え、自分の思いや考えを表現できる子 ◇「す」健やかな子 ・いじめを許さず、人権感覚を身に付けた思いやりのある子 ・体力の向上を目指すたくましい子	目指す教師像 ◇子供一人一人を大切にする教師 ◇わかる・できる授業を工夫する教師 ◇明るく健康で情熱にあふれる教師 ◇専門職としての使命を自覚し信頼に応える教師
---	---	--	--

重点教科等の現状

国語

- ・県及び市の平均正答率と概ね同等の正答率。
- ・文章構成の記述や推敲における習熟度の差が大きい。
- ・文章を書くことについて苦手としている児童が多く、埼玉県学力・学習状況調査では、特に記述式の文章を書く問題において、全学年とも無解答率が30%～50%と高い割合になっている。正答率も30%～40%となっており、他の回答に比べ低い。
- ・4学年は『情報の扱い方、我が国の言語文化』、5学年は『話すこと・聞くこと、書くこと』6学年は『読むこと』と、学年ごとに課題とするべき領域が異なる。

算数

- ・県及び市の平均正答率と概ね同等の正答率。
- ・記述式の問題の正答率が全学年とも30%以下と苦手意識が強い。
- ・小数や分数の計算、図形やデータを読み取る力が弱い。
- ・低位層の伸びに比べ、中位層の伸びが小さい。
- ・4学年は、分数、表から特徴を読み取る問題、道のりの長さの差に対して計算を用いて説明する問題に課題が見られる。5学年は、四則計算の決まり、基本を基にした応用を必要とする問題に課題が見られる。6学年は公約数、分数の計算、説明文の読み取りと条件の中から正答を見つける图形の問題に課題が見られる。

本校の課題

- 課題に対して、正確に内容を把握し、課題解決に向かう力を高める。
- ICT等を活用し、自分に合った個に応じた学びを通して学びを深める。

R&VPDCA サイクルによる授業改善→学力向上の実現

Research & Vision 課題の調査・方向性の決定

- ・引継ぎ資料、学力調査結果等をふまえた課題の分析（学期始め・9月）
- ・エビデンスに基づくゴールの設定、「不易と流行」を意識した取り組み

Plan 課題解決の計画

- ・学力・学習状況調査等を基にした指導計画・指導法の改善策
- ・小中連携連絡協議会による地域で取り組む学力向上策
- ・全教職員による共通理解
- ・保護者・地域への広報活動



Do 指導の実践

- ・学力・学習状況調査等への取組に基づく指導実践
- ・高学年での教科担任制の導入
- ・校内研修の充実
- ・各教科等における指導の充実
- ・保護者・地域との連携

Action 課題の絞り込み

- ・課題の確認と改善策の立案
- ・学習・生活規律等への取組の見直し
- ・次年度の教育計画の見直し
- ・全体計画・年間指導計画の見直し・改善

Check 取組の評価（時期）

- ・各学年の取組における評価(毎学期末)
 - ・学校評価等による成果と課題の把握
- (年度末)

令和7年度 校内研修 研究主題

「主体的に活動する児童の育成」

～個別最適な学びと協働的な学びの実現～

課題設定の工夫

児童が相手意識・目的意識をもてたり、達成感を味わえたりするような課題設定を行い、児童がわくわく感、必要感をもって学習を見通しながら主体的に活動に取り組ませる。

学び方の工夫

それぞれの児童に合った学び方を、自ら選択することで、児童が様々な場面で主体的な学びを行えるようにする。

具体的な取組

○スキルアップタイムの取組

- ・算数について、意欲や関心が高まるような取り組みを継続して行う。（毎月第2火曜日の朝の時間を中心）

○問題解決的な学習への取組

- ・各教科で自力解決の時間を確保し、主体的に表現できるようとする。
- ・資料・情報などを精査し、活用する学習に取り組む。

○表現力の育成

- ・「目的意識」をもたせることで、相手にわかりやすく表現する力を高める。

○学び方の工夫

- ・様々な場面で主体的に学び続けることができるよう、それぞれの児童に合った学びのスタイルを、自ら選択できるようにする。

○個に応じた指導の充実

- ・授業形態の工夫、ICTを効果的に活用する。
- ・習熟度に応じた「伸び」のある授業を行う。

○学級経営の充実

- ・児童一人一人が認められ、よさや可能性を発揮でき、他者の失敗や短所に寛容で共感的な学級の雰囲気（支持的な風土）を醸成していく。
- ・よりよい学級づくりのための取組を実施する。
- ・児童の共感的人間関係や自己有用感を高める学級作りを行う。

○家庭学習の充実

- ・家庭と連携し、自律した学習の習慣化の工夫に取り組む。

○読書活動の充実

- ・朝読書タイムを行う。（火曜・木曜）
- ・はっぴいさん（ボランティアによる読み聞かせ）を有効活用する。
- ・図書館の積極的な活用。

1 1 / 1 1 学力向上委員会 意見 1 6 : 3 0

1 1 / 1 1 学力向上委員会 意見 1 6 : 3 0

1 1 / 1 1 学力向上委員会 意見 1 6 : 3 0